

# 國民幼稚園の名に於て

國民教育者としての養教 (七)

## 倉橋惣三

國民幼稚園が國民幼稚園としての充實した内容をもつために、最も大切なことが、保母自らの國民教育者としての自覺であることはいふまでもない。しかも、その自覺が、實際に日々の保育を通して、幼い心を涵養し得るためには、保母が常に國民教育者として必須な教養を貯へ、その教養を絶えず新鮮潑刺ならしめてゐることが必要である。

苟も皇國の保母たり、國民精神は胸に漲つてゐる。たゞ、その國民精神は、精神的熱き力との外に、充分なる内容を具へなければならぬ。理解といふだけでは言葉が足りないが、日本の文化全般に亘つて、又、今日の日常生活の全面に亘つて、國民精神的解釋と批判と選擇とが出来た内容をもつてゐなければならぬ。教育は氣を以て發するが、導き育てるには氣だけでは出来ない。是非とも精密にして豊富な教養内容を要するからである。

このために、保母は、たえず此の方面の教養に有效なる教養を怠らぬやうにしたい。兒童研究も、教育研究も、各保育項目の研究も、何れも極めて必要であり、これなくして、日々の保育を誤りなく行つてゆくことは出来ないが、それと共に、それ以上に怠つてならないのは、國を知り、國を解し、國に感ずる教養の深さである。幸にして近時、この方面の教養の途は、甚だ手近かなところに多くなつた。講演にも、著述にも、隨所にその最もよきものを得られる。たゞせば古事記を精讀しようではないか。それも幼兒に碎いて聽かせるためといふよりは自分のためにいふ深さで、だから、保育資料として直接に用ゐられ得るものに限らず、自分のために、古典でも、新書でも、史傳でも、文學でも、日本の教養を高め深めて呉れるものは、國民教育者の心の糧として、休まず研究味としやうではないか。殊に文部省は、さきに「國體の本義」を刊行し、又今、「臣民の道」を刊行して、教育者の必讀を奨めてゐる。日本全國の學校教育者は皆之れを急ぎ繕き、繰りかへし精讀してゐる。たゞ從來としては之等の研究に對し、幼稚園が多少學校の如くでなかつたかの風がないでもない。教育者の經典で、保育者のではないと、決してそうはつきり意識してゐる譯ではないが、切實感に於て多少差があつたことも見られ得る。假りにも果してそうならば、大に遺憾であり、甚しき倦怠である。國民幼稚園の保母は國民教育者である。その自らを國民教育者として教養することに於て、一點の差もあつてはならない。